



白バラ牛乳
大山乳業農業協同組合

酪農だより

Vol.
688

令和元年5月号

あなたへ贈る「白の一滴、心の一滴」～酪農家の心を食卓へ～

今月の特集

牛は「優しくて、温かい」
絵本で伝える酪農の魅力

現場潜入

大山乳業農協の牛乳ができるまで

各種活動レポート

指導課通信

大山乳業農協からのお知らせ



牛は「優しくくて、温かい」 絵本で伝える酪農の魅力



酪農が子ども達にとって 親しみやすい存在になれば

幼い頃に出会う絵本は、ワクワクしたりドキドキしたり、笑ったり、驚いたり。子ども達は底なしの好奇心と探究心で絵本の世界に夢中になります。そして絵本を通して様々な知識を得るといいます。

いつの時代にも子ども達の傍には絵本があり、そのジャンルも幅広く、絵本のコンシェルジュが登場する程です。

そんな中、6月1日牛乳の日に大山乳業農協から絵本「こんにちはおーちゃん」が発売されます。

子ども達が酪農に興味を持ってくれるようにと願って絵本を作られたのは鳥取県大山町の酪農家、吉田裕美さん。吉田さんの描くイラストは柔らかい筆使いと優しい色彩で表現する温かい世界感が印象的です。

「難しい画材などは使っていないです」という言葉の通り、絵を描くのに使っているのは、筆ペン・パステルや綿棒など。家庭にあるもので小さな子どもでも一緒に着色が出来ればとの思いからだそうです。

そんな吉田さんの絵本作りを酪農家の皆さんも応援しています。吉田さんの絵本作りが話題になると、顔を見

た時には声をかけてくださるそう。あまり人前に出ることが得意ではない吉田さんも「絵本描いとるだつて？がんばりないよ」という応援の声が励みになると言っておられました。

絵本作家になったの？と聞かれるそうですが、頂いた名刺には「牛を飼う人」の文字。吉田さんは現役の酪農家。お嫁に来たころは右も左もわからなかったそうですが、今では搾乳もこなします。

吉田さんが、絵本の製作をするのは、酪農の仕事の合間。

決して簡単なことではない酪農との両立ですが、吉田さんは自分が作った絵本を子ども達が見て、読んで、酪農って素敵だな、牛ってすごいな！もっと知りたいな、と興味を持ってくれれば嬉しいと笑顔を見せてくださいました。

今回は、吉田さんが絵本を作るきっかけや、絵本を描く中で大切にしている事を伺いました。

大山の麓で誕生した絵本 「こんにちはおーちゃん」

「ついに発売日が決まって、いよいよだね。あつという間だったね。」

絵本の打ち合わせを終え、吉田さんは感慨深げに微笑みました。



1 2



3 4



1. 吉田さんが家族で営む吉田牧場(大山町)
2. 吉田さんに牛舎を案内して頂きました
3. 絵本を描くときに使われる画材
4. 迷いなく筆ペンでもーちゃんを描きます
5. 優しく色づけするともーちゃんが完成
6. フェルト作家さんが作ってくださいました!



5 6



吉田さんは以前から絵を描くのが好きで、空いた時間に絵を描いて童話や絵本などの創作物を発表するサイトに投稿しておられました。そんな折、参加していた食育活動での出来事が、もーちゃん誕生のきっかけになったそうです。

ある日の食育活動で牛を紹介する映像を見てもらった際、リアルな牛と、その迫力に泣いてしまったお子さんがいたそうです。せっかく酪農や牛の事を知ってもらえるのに、牛は怖いって思っちゃったかな。もし、可愛らしい牛さんだったら怖くないかな? という思いが膨らんで、私のオリジナルの牛を描いてみよう! と誕生したのが「もーちゃん」でした。

もーちゃんを使って牛の事を紹介する絵を描き、意見を求めたところ、ようすを説明する文章があるとわかりやすいとアドバイスを受け、ご自身

で筆を使って文章をプラスすると、絵本の原型が出来上がりました。

出来上がった原画を手に吉田さんは指導課へ「絵本を作ってみよう! と思っているんだけど」と相談してみることに。原画を見た指導課職員は、大山乳業農協へ絵本の出版を提案し、発売に向けて動きだしました。

完成した絵本は、山陰両県の今井書店をはじめ、ジュンク堂書店・紀伊国屋書店など全国へ向けて発売するだけでなく、鳥取県内の全小学校や公立図書館へ配布する予定です。

吉田さん曰く、1つ1つの小さな「やってみよう! 」という私の気持ちだけでは、近所の子ども達に読み聞かせをするくらいで完結していたかもしれません。こうして書店に並ぶような絵本になり、沢山の子ども達も読んでくれるのは本当に嬉しいです。

吉田さんの瞳の奥には、沢山の子ども

も達が楽しそうに絵本を読む姿が浮かんでいるようでした。

絵本が私達の代わりに牛の事を広めてくれれば

酪農家の皆さんは、1人でも多くの方に酪農や牛の事を知ってもらいたいという思いで、積極的に普及活動に参加してくださいませ。

しかし、鳥取県の酪農家数は全国と比較しても決して多いとは言えません。時間と体力の勝負なんですよと言われた吉田さんの言葉が心に残りました。

吉田さんはこうした現状を絵本が打開してくれるかもしれないと考えておられます。

酪農家を作った絵本には、酪農家の思いが詰まっています。その絵本を読んだり、読み聞かせることで、さらに

誰かに伝わり、酪農家の思いは沢山の人の心に広がっていくと感じました。

吉田さんが今、生き生きと酪農家として牛と共に生きながら、絵本を描く毎日には酪農家として酪農の魅力を伝えたいという思いがあります。

絵本のあとがきで吉田さんはこのように書いておられます。

正直、牛が好きで牛を飼う人になっただけじゃありません。どちらかというと苦手。牛は大きいし、足を踏まれれば痛いし。でも、牛を飼う人って一生懸命なんです! 本当にカッコイイんです。私も少しずつ牛を好きになってきているようです。

そんな吉田さんは家族と共に、牛と共に今日も新たな物語を紡いでおられます。



現場 潜入

大山乳業農協の 牛乳ができるまで

《第5回 宅配牛乳編》

大山乳業農協と共に 歩んだ宅配牛乳の歴史



大山乳業農協第1工場3階のロビーには大山を眺めるように並ぶレトロな牛乳瓶があります。

それぞれに「白バラ印」「ダイセン」のロゴが入った瓶は貴重な大山乳業農協の歴史です。その下には、当時牛乳を配達するのに使っていた木製の受け箱。

今、時代と共にその役割を終え私達と共にお客様を迎えています。

色褪せることなく、今日も光を浴びて輝くその姿は日々来場者の目を惹き寄せ、様々な人の記憶や思い出話に華を添えます。

今回は、大山乳業農協が時代錯誤と心配された時代でも長年守り続けてきた「宅配牛乳」に迫ります。

私達が大山乳業農協で あるための道を



私は宅配の歴史を知るために、東大阪にある伯耆酪農商事(株)の執行役員、岡崎営業本部長を訪ねました。

岡崎営業本部長は、長年宅配牛乳を取り巻く時代の流れを見続けてこられた方の1人です。

大山乳業農協の宅配牛乳事業に



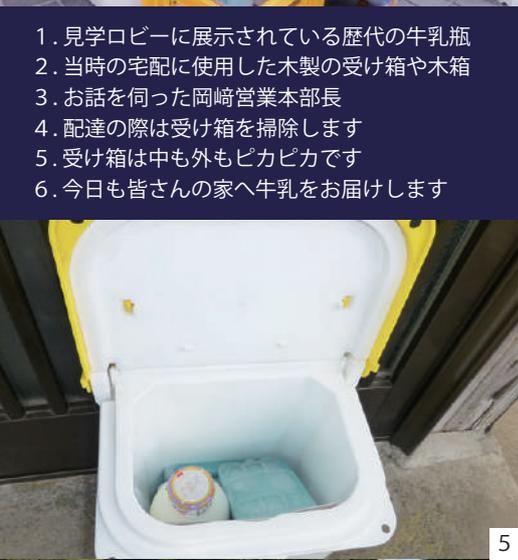
1 2



3 4



1. 見学ロビーに展示されている歴代の牛乳瓶
2. 当時の宅配に使用した木製の受け箱や木箱
3. お話を伺った岡崎営業本部長
4. 配達の際は受け箱を掃除します
5. 受け箱は中も外もピカピカです
6. 今日も皆さんの家へ牛乳をお届けします



5 6



は、変化していく時代を乗り越えた歴史がありました。

昭和40年頃、時代は高度経済成長の最中。日本は宅配牛乳全盛期。牛乳販売店が全国に広がりました。当時の牛乳容器は紙容器ではなく、瓶容器が一般的でした。当時の瓶は傷が付きやすく、割れやすい、さらに重く、販売店は重労働に苦労したそうです。当時、牛乳を配達する手段は自転車。牛乳瓶を前後、両サイドに積み近所を回ったそうです。その姿を想像してみると配達途中、「最近調子はどうだい？」と近所の方と言葉を交わしていたのかも、と当時に思いを馳せました。

その後時代は、スーパーマーケット全盛期へ。宅配牛乳は一気に苦境に立たされます。

各メーカーは1000mパツクにシフトしましたが、大山乳業農協は、自分たちらしくあるために、

宅配事業を1つの重要な事業と位置付け引き続き取り組みました。

時代錯誤だ、といくら批判を受けても自分たちが大切にしてきた理念を貫き、その後は瓶の改良や受け箱の改良、さらにはオーバーキャップの採用を積極的に進めました。

岡崎営業本部長は「我々の使命は牛乳を売る事。時には大変な仕事もあった。その度に、先輩方が手を差し伸べてくれてくださった。同僚と切磋琢磨し、販売店とも膝を突き合わせ話もした。多くの時間を共有し、困難な問題を一緒に解決してきた。そして何より、大山乳業農協の品質・ブランドを選んでくださったお客様がいた。生産基盤を安定させ守るためにも、宅配の安定した市場は重要な販売方法の1つであると確信している」と語られました。

この先も宅配牛乳事業は大山乳業農協の大切な事業でありつづけ、

酪農家と販売店と共に直接牛乳をお届ける為に、これからも頑張りたいという熱い思いを感じました。

大山乳業の 宅配販売店の今



今回快く取材を受けて頂いた牛乳販売店は、(有)田中知義商店。平成14年に開催された全国牛乳流通改善協会主催の第15回牛乳販売通優良事例中央発表会にて最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞された輝かしい経歴の販売店さんです。

現在、店主の田中良夫とスタッフ2名で北栄・琴浦町エリアの顧客に、早朝・午前・午後の1日3コースの牛乳配達を行っておられます。店主の田中さんの配達に同行し、一番驚いたのは、どこの家の受け箱も埃や汚れがないという事。配達の際はタオルを持参し、受け箱の清掃

をされるそうです。清潔に保つことで、安心して牛乳を飲んでほしいという田中さんの細やかな心くばりを感じました。

田中さんは、「宅配は、お客様の顔が直接見え、牛乳を飲んでくださる方の元気な姿を見るのが何よりの喜び。牛乳を待つてくれている人がいるから、この仕事を続けてこられた。」という言葉が印象的でした。

やりがいを感じる一方で、様々な理由で宅配を止める方や、スーパーで紙パックを購入する若い世代にも、新規で宅配を初められる方が増えると嬉しいと語られました。

田中さんは「宅配は製造した次の日に顧客の手に牛乳が届く。こんな新鮮で美味しい牛乳は他にない。ぜひ皆さんにも飲んでほしい！」とこれからも1人でも多くの人においしい牛乳をお届けたいと語ってくださいました。

営業所レポート

コープしが「第10回商品大交流会」に参加しました

4月27日(土)に長浜ロイヤルホテルにて、コープしが「第10回商品大交流会」が開催されました。

コープしがでは「笑顔広がるラブコープ」たべることはたのしいこと」と題して年2回、春と秋に開催しており、今回は約4000名の応募の中から抽選で約870名の生協組合員が来場され、会場は大変賑わいました。

今年の会場にはメーカーなど75のブースが設けられ、各ブースで試飲試食や販売が行われました。

大山乳業農協のブースでは、牛乳の飲み比べやヨーグルト・菓子の試食・販売を行いながら、生協組合員と交流を深めました。

牛乳の飲み比べでは「殺菌温度が違うだけでこんなに味が違うの?」と



いった驚きの声や、「白バラ抹茶が飲みやすい」「のむヨーグルトが飲み応えがありおいしい」と嬉しい言葉も多かったです。

今回の商品大交流会は、大型連休の初日だったこともあり、お子様連れのご家族が多く来場され、大人から子どもまで幅広い年齢の生協組合員の皆さんに産直商品の良さを伝えることができました。

また、酪農家への感謝の言葉もいただき「産地直結」のつながりを実感できた1日となりました。

今後もこのような交流の場を通じ、さらに産直商品を知っていただき大山乳業商品のファンを増やしていきたいよう取り組んでまいります。

(京都営業所 森長)



生協組合員理事の皆さんから頂いた色紙

製造管理課レポート

工場見学GW特別開放に1500人来場

5月1日(水)〜4日(土)の4日間、工場見学通路の特別開放を開催し、合計1500名のお客様が来場されました。

例年ゴールデンウィークは多くのお客様に工場見学にご来場頂いておりますが、対応可能な人数に限りがあるうえ、当日飛び込みで来られたお客様はやむなく見学をお断りする事もありました。

そこで10日間に渡る大型連休となった今年は、1人でも多くのお客様に楽しんで頂けるよう、見学通路を開放し、自由に工場をご覧頂けるイベントを開催することにしました。

ご来場された方の中には、小さなお子様をお連れのご家族が多く見受けられました。また中には、関東、東海、九州など遠方からご来場された方も興味深そうに見学通路から工場内を覗き込む姿が見られました。

事前にHPや口コミで情報を得てご来場されたお客様も多く、「楽しみにしていました!」という声も聞かれました。

また、見学通路には来場記念のスタンプコーナーを設けていますが、お子様に限らず大人の方も、パンフレット

や持参された手帳などに嬉しそうにスタンプを押して帰られる姿が見られ印象的でした。

今回の来場者数は、私達の予想をはるかに上回る人数で、急遽スタッフを増員するなど、嬉しい悲鳴となりました。

次回は、牛乳の日である6月1日(土)、そして6月22日(土)に工場見学開放を予定しています。

イベント内容を充実させ、大山乳業農協のギフトが当たる引き牛乳体験や、限定ステッカーがもらえるクイズラリー、絵本の読み聞かせなどの内容でご来場のお客様をお迎えする予定です。組合員の皆さんもぜひおこしください。



工場見学通路の様子



小さなお子様も楽しんで頂けました

第1回 私達の仕事

令和元年、品質管理課は新たな仲間も加わり、女性6名、男性1名でスタート致しました。初回は、私も所属する品質管理課の仕事について紹介します。

品質管理課は、お客様に安心・安全な製品をお届けするために様々な部署と関わり、皆さんをサポートしています。

私達の仕事は製造の工程表や記録表の作成、工場で使用する量りや温度計などの計測機器の管理、工場内の衛生状態の管理、防虫・防鼠の管理など、常に製造現場の皆さんと一緒に、協力しながら日々奮闘しております。

また、何かトラブルが発生したり、お客様からのお申し出があった時には、その原因の究明や対策などを製造担当者と協議し、再発防止に向け一緒に取り組めます。

さらに、大山乳業農協全体の品質管理の意識高揚にも取り組むため、研修会も実施します。

また、品質管理課はお客様相談室の窓口になっています。お客様から直接お叱りを受けることもあります。 「白バラ牛乳じゃないとだめなんだよね、どこに売ってありますか?」といった嬉しいお言葉を頂くことも多く、その時は、この組合の一員であることを誇らしく思います。

品質管理課では、課内で誰が何の仕事をしているか、何に困っているかなど、互いに気かけながら仕事をしています。

これからもチームワークを大切に、ナイスアシストできる品質管理課になれるようにがんばります!



皆さんもぜひ飲んでください

近年、若い世代で牛乳離れが進んでいると言われる中、今一度瓶牛乳の価値を思い出してもらい、多くの消費者に瓶牛乳を飲んでもらえたらうれしいです。

長年「宅配」に関わってきた、個人的には一番思い入れのある商品であり、先輩や同僚・販売店との色々な想い出が詰まった商品です。

「特選白バラ牛乳900ml」です。この牛乳は「宅配」の基本となる商品であり、大山乳業農協にとって安定生産・安定供給・安定消費に欠かせない最も重要な商品になります。

皆さんこんにちは、伯耆酪農商事(株)営業本部長の岡崎です。

私のオススメ

J A 鳥取県人権・同和問題対策推進本部からのお知らせ

J Aグループ鳥取では人権・同和問題に対して「第7次(2018~2020年度)J A鳥取県人権・同和問題対策推進方針」をもとに、差別と偏見のない社会の実現のために取り組んでいきます。

組合員の方はもとより、地域住民の方にも人権・同和問題が身近な存在であることに気づいてもらうため、第7次(2018~2020年度)の期間中、人権・同和問題に対する啓発記事を年4回連載します。

第15回「児童虐待防止のために」

昨日、しつけと称した深刻な児童虐待事件が後を絶たず、対策強化のため、平成31年3月に児童虐待防止法について、親による体罰を禁止とする改正案が政府より発表されました。

しかし、法律で禁止されたからといって、虐待が根絶されるわけではありません。大人や子どもに関係なく生まれたときから誰もが等しく尊い存在です。全ての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばし成長できるような改めて、「しつけ」とは「体罰」とは、その境界線はどこにあるのか

考えていくことが大切です。また、核家族化、少子化、地域希薄化等により、親の間に、子育ての負担感や育児に関する悩みなどが広がっています。日々の子育てに励み、努力している人に対しても、周囲の人が気に掛け思いやることも大切だと思います。

地域が一体となって、子どもたちが健やかに育つ環境づくりに努めていきましょう。



研修のようす

新入職員 交通安全研修に参加

4月26日(金)、鳥取県倉吉自動車学校において新入職員10名の交通安全研修が開催されました。

研修では、適性検査、運転シミュレーター研修、自動車運転講習が行われ職員個々の運転適性や運転技術を診断しました。診断結果を基に、より一層安全運転に取り組むことを再確認した1日となりました。



公益財団法人鳥取県畜産振興協会 乳用牛放牧預託牛成績状況報告

単位：頭 平成31年4月30日現在

牧場名	区分	頭数	内 訳									
			育成牛	種付け対象牛			妊娠牛（月齢）				妊娠牛中のET	
				うち種付中	うち妊鑑待ち	未種付	17以下	18~20	21以上			
鳥取放牧場	乳牛	498	162	167	117	45	50	169	68	74	27	58
	割合(%)	100	33	34	23	9	10	34	40	44	16	34
鳥取放牧場計	乳牛	498	162	167	117	45	50	169	68	74	27	58
	割合(%)	100	33	34	23	9	10	34	40	44	16	34
大山放牧場	乳牛	454	136	139	75	27	64	179	75	84	20	31
	割合(%)	100	30	31	17	6	14	39	42	47	11	17
俵原牧野	乳牛	60						60	6	45	9	13
	割合(%)	100						100	10	75	15	22
大山放牧場計	乳牛	514	136	139	75	27	64	239	81	129	29	44
	割合(%)	100	26	27	15	5	12	46	34	54	12	18
総 計	乳牛	1012	298	306	192	72	114	408	149	203	56	102
	割合(%)	100	29	30	19	7	11	40	37	50	14	25

※1 種付けは、13ヶ月以上、体高127cmで実施

※2 妊娠牛月齢の割合及び妊娠牛中のETの割合は、それぞれ妊娠牛中の割合

ET実績(乳牛)

※実施数、受胎率は鑑定済みのもの

年月	実施数	受胎数	受胎率
H30.03	81	45	56%
H30.04	43	21	49%
H30.05	42	23	55%
H30.06	34	15	44%
H30.07	36	15	42%
H30.08	34	13	38%
H30.09	52	29	56%
H30.10	61	30	49%
H30.11	58	33	57%
H30.12	37	21	57%
H31.01	37	18	49%
H31.02	59	27	46%

AI実績(乳牛)

年月	実施数	受胎数	受胎率
H30.03	77	42	55%
H30.04	98	49	50%
H30.05	103	60	58%
H30.06	82	49	60%
H30.07	58	21	36%
H30.08	96	48	50%
H30.09	113	61	54%
H30.10	121	76	63%
H30.11	144	82	57%
H30.12	115	62	54%
H31.01	114	58	51%
H31.02	108	59	55%

平成31年4月分 生乳出荷量別生産者戸数

出荷乳量	出荷戸数(戸)	
	平成31年	平成30年
100t以上	15	12
80t以上 100t未満	1	4
60t以上 80t未満	12	10
40t以上 60t未満	11	15
20t以上 40t未満	34	27
10t以上 20t未満	18	26
10t未満	22	28
計	113(+1)	122(+1)

輸入粗飼料の情勢

品目	今後の改定要因			特記事項
	品代	為替	フレート	
フレート			↑	4月は港湾労使交渉の影響で、日本国内において平日では22年ぶりに港湾ストライキが実施された。このため、大型連休前のコンテナのデリバリーに大きな影響が出た。労使交渉はまだ妥結しておらず5月以降も引き続き動向に注意が必要です。また連休後は引き取れなかった貨物や、連休中に寄港した本船の貨物がCYに滞留することが予測され、しばらくは混雑が予想される。
ビートパルプ	→	↓ (円高傾向)	↑	1月下旬から2月にかけて中西部を襲った歴史的ともいわれる大寒波は製糖工場の稼働に大きな影響を与え、製糖/ペレット生産に遅れが生じた。天候による生産の遅れははたが、低温続きであったため原料大根の劣化も見られず、例年よりも良好な保管環境のまま生産を終了することができそうだ。米国内の乳価は引き続き酪農家が十分な利益を確保できるレベルではなく、飼養頭数の減少も予想されるものの、アルファルファの在庫不足など、総じて繊維源の供給力が十分ではない状況のなか、米国内のビートパルプペレットの相場は堅調に推移している。
ヘイキューブ	→	↓ (円高傾向)	↑	
スーダングラス	→	↓ (円高傾向)	↑	5月1日時点の作付面積は前年同期比87%まで進捗している。競合作物のデュラム小麦の作付状況は、4月15日時点で前年同期比36%と産地相場の低迷を受けて引き続き低調に推移しているが、この減少分の多くは、他草種に移行しており、作付面積は昨年並みになるものと予想されている。新穀の収穫開始は、6月から本格化する。新穀以降の相場は上級品から低級品まで底堅く推移するものと予想される。
アルファルファヘイ	→	↓ (円高傾向)	↑	中国向けは米国産の輸入関税の影響で、米国以外のアルファルファを輸入していたが、これらの在庫も不足に陥ってきたことに加え、中国国内の在庫も底をつき始めていることから、米国へ需要が回帰している。中東からの需要も引き続き強く、さらに米国内の酪農家からの需要も底堅いことから産地価格は堅調に推移している。新穀の作付面積は前年並みで大きな変化はない。今年2月にワシントン州では多くの降雪があり、4月上旬までコロンビアベースンの圃場にも雪が残っていたが、この影響でアルファルファの生育に約2週間の遅れが出ている。順調に作業が進めば、1番刈が本格化するのは5月下旬ごろ、新穀出荷は7月初めごろのスタートと予想される。
USチモシー	→	↓ (円高傾向)	↑	旧穀で発生量が少なかった上級品（馬用や酪農用最上級品）の在庫はなく中間から低級品については、一部のサプライヤーで余剰がある。2018年産の産地相場は高値で推移したことから、作付意欲は増しており作付面積は若干増しており、生育状況も良好である。産地相場は引き続き堅調であり、相場が弱まる要因はないが、新穀の作柄次第では旧穀在庫が限定的な上級品と一部余剰のある中級品以下との価格差が広がる可能性がある。
カナダチモシー	→	↓ (円高傾向)	↑	19年産の作付面積は、主産地であるアルバータ州レスブリッジ地区およびクレモナ地区のどちらも作付面積は5～10%程度増加する見通しとなっている。産地相場については日本および韓国からの需要が安定していることから、大きな変動なく堅調に推移している。
オーツヘイ	→	↓ (円高傾向)	↑	現在、産地では19年産の作付に向けた準備が進んでおり、各サプライヤーは生産農家との買付数量契約を進めている。豪州国内の畜産農家からの需要は引き続き旺盛な状況にあり、産地価格については軟化することなく、18年産の開始時と同等のレベルで推移している。
クレーングラス	→	↓ (円高傾向)	↑	4月15日時点の作付面積は前年同月比122%となっている。19年産は増産が期待される。新穀の収穫作業は4月下旬～5月上旬ごろから開始される見通しで、一部の圃場では1番刈の掃除刈りが開始されているが、今冬は降雨が多かったことから、雑草の混入が多い。産地相場については、日本および韓国からの需要は旺盛な状況が続いており、高値のまま安定して推移している。日本および韓国からの引き合いは引き続き強く、収穫開始とともに買付が殺到し、産地相場が一段と上昇することが懸念される。新穀の収穫進捗とともに産地相場の動向には注視が必要である。
ストロー類	→	↓ (円高傾向)	↑	現在米国にあるバイオマスプラントにおいて、バイオガスを生成させる過程でライグラスストローを使用するプロジェクトがあり、にわかに米国内で需要が高まっている。このプロジェクトが進捗した場合、消費量が増え、4%ほど作付面積が増えているにも関わらず輸出向けのライグラスストローに影響する可能性が否定できない。
ルーサンペレット (デハイ)	→	↓ (円高傾向)	↑	

第3回大山町乳牛共進会が開催されました

4月12日(金)、萩原公園にて大山町酪農組合主催の乳牛共進会が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、審査員に(有)長恒牧場の長恒泰裕氏を迎え、6部33頭の出品があり、多数の御来賓・応援の皆様にもご参加いただき盛大に共進会を開催することができました。また、大山乳業農協の新入職員も参加し、共進会の見学と組合員さんとの交流をさせていただきました。

共進会終了後は萩原公民館で焼肉交流会を行い、組合員・来賓の皆様、職員の懇親を深めました。

出品者、町酪役員、職員の皆様、ご協力ありがとうございました。また協賛いただきました各企業・団体には、厚くお礼申し上げます。

なお、各部のチャンピオンは、以下の通りです。



各部のチャンピオン集合写真

出品部	序列	出品番号	名号		父名号		出品者
			登録番号	生年月日	母名号		
1部	未經産グランドチャンピオン	107	アプレゲール レジエンド クルス 13776-5269-4	2018/7/21	J C レジエンド バンビ アプレゲール ギヤラクシー マーサー		菅原 大介
2部	チャンピオン	202	トヨシマ セサミ ウメ シルクア フタゴ 15398-0857-0	2018/2/13	ゴールドデンビユー カリブソ シルクア ダイセントヨシマ セサミ シド プレンダ		豊嶋 健
3部	チャンピオン	307	シヨーファーム パルスト ダーリング RED 15515-2203-4	2017/7/16	ラ プレゼンテーション パルスト RED ET シヨーファーム カーソン タイガー RED		山下 大介
4部	チャンピオン	402	ウイル マツカチエン オーマン 13883-7978-8	2017/5/26	デスー BKM マツカチエン 1174 ET ウイル オーマン シーマ		西山 友之
5部	チャンピオン ベストアダー	504	シユガー モーグル トンベリ E T 14143-3603-7	2016/11/20	マウントフィールド SSI DCY モーグル ET ストーンデン モーガン レッド ドーナツ RED		(株)ブッシュ クローバース
6部	経産グランドチャンピオン ベストアダー	606	シユガー フェムコ サンディー ノンタン 13544-3417-6	2014/2/22	レスポアール サンデイスター ハーゲン シユガー フェムコ フィーバー フェルマータ		(株)ブッシュ クローバース

西日本酪農発表大会が開催されました

去る4月18日・19日、徳島市の阿波観光ホテルにて、第50回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会が開催されました。

当組合からは山下大介さん(大山町)が酪農経営発表の部で発表されることもあり、青年部・女性部より10名事務局が応援に行きました。

山下さんは、低コスト経営について発表されました。その特徴として「牛舎は手作りするもの」「機械も家族の「一員」「資源循環型酪農への取り組み」「粗飼料自給率は90%以上」の4点で、手作りできるものは手作りをし、機械も小まめな点検と修理で長く使うことを実践していると紹介されました。

また、良質生乳生産においては、「当たり前を確実に実施すること」を大切に、地域に適した牛舎環境の提供・繁殖改善については、分娩後20日でのフレッシュチェック、人工授精をし、種付け後30日で妊娠鑑定をするプロダラムの導入、さらに衛生的乳質についてもラクトコクターを使用した洗浄確認、自記温度計の設置と合わせて、当組合の基準を上回る数値を維持しています。

さらに、研修会等へも積極的に参加し、有益な情報はすぐに実践することも重要だと話されました。体細胞スコアを重視した改良を行ったり、専門的な知識や技術を持った人々に積極的に関わってもらうことも経営をより良

くするための方法の1つと考えておられます。

地域との関わりや、酪農教育ファーム認証牧場として地域の子供たちや社会人の方々を受け入れ、酪農についての理解を深める活動も積極的にされているとのことでした。

山下さんは今の規模を維持し、我が家に合った牛舎環境を整え、「ちいさくてもしっかり稼げる酪農」を目指し、これからも家族で協力していくと発表の最後を締めくくりました。

結果は、技術および経済総括表においても全く遜色ありませんでしたが、徳島県の発表者古川善久さんの経営は従業員全員がゆとりを持ち従事する為の取組み(海外実習生の増員)が現在の働き方改革にも通ずるものがあるとして、最優秀賞となりました。発表者の山下さん、お忙しい中応援に来て下さった皆様、お疲れ様でした。



応援者と一緒に(山下さん:写真前列左から3番目)

※第48回全国酪農発表大会の開催のご案内は別紙をご覧ください。



大山乳業農業協同組合 からののお知らせ

D a i n y u I n f o r m a t i o n

理事会だより 平成31年4月20日理事会にて次の議案が決議されました

【4月20日提出議案】

- 第1号議案 決算監事監査指摘に対する回答について
- 第2号議案 3月末経営検討について
- 第3号議案 生乳検査依頼規程の設定について
- 第4号議案 各種規程の改廃(給与規程、嘱託職員就業規則、定年再雇用規程、免許取得助成要領)及び新設(資格取得支援規程)について
- 第5号議案 長期資金の借入について
- 第6号議案 労働組合の春闘要求について
- 第7号議案 役員報酬について

製造管理課 6月1日(土)・6月22日(土) 牛乳月間イベントのお知らせ

下記の日程で、大山乳業農協工場見学の牛乳月間イベントを開催致します。是非皆さんご来場ください。お待ちしております!

2019年6月1日(土)・6月22日(土)
9:30 ~ 12:00 まで ※受付は 11:30 までです

開催イベント

大人気!工場見学開放

先日のイベントでは、4日間で1,500名のご来場となった人気企画です。予約不要でお好きなペースで見学して頂けます。また、スタッフも通路でお待ちしているので安心です!

全問正解なるか!? 利き牛乳体験

あなたは大山乳業農協の牛乳をあてられますか!? 白バラ牛乳、大山、白バラ低脂肪牛乳をご用意。全問正解者には、大山乳業農協関連商品をプレゼント!

クイズラリー

大山乳業農協にちなんだクイズを出題。参加者には限定ステッカーをプレゼントします!

絵本読み聞かせ

6月1日に発売の絵本「こんにちはもーちゃん」。子どもも大人も楽しめる絵本となっています。

職員、組合員の皆様のご来場お待ちしております!

営業課 牛乳月間のお知らせ



6月、酪農の盛んな地域では、新しい草が伸びる頃から放牧を始め、冬を牛舎で過ごした牛たちは野に放たれ躍り上がって喜び、思う存分青草を食みます。生命力あふれるこの時期、牛乳や、牛乳をもたらず命や自然、働く人々に感謝するお祭りやお祝いが世界各地で行われます。

このことから、平成13年に国連食糧農業機関(FAO)が、6月1日を「世界牛乳の日(World Milk Day)」とすることを提唱しました。

日本でも日本酪農乳業協会(現「ミルク」)が平成19年に6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」と決めました。牛乳月間、皆さんのお好きな方法で牛乳を楽しんでみてはいかがでしょうか?

異動辞令等 下記のとおり 異動辞令が発令されました

異動辞令(令和1年5月10日付)

(所属及び役職) (氏名) (旧所属及び役職)

製造部

市乳課職員 中村 幸司 津山営業所職員

異動辞令(令和1年6月1日付)

(所属及び役職) (氏名) (旧所属及び役職)

販売部

京都営業所職員 乾 裕一 営業課職員

ホームページ からの声



■ 普段、牛乳だけで飲むことはあまりないですが、白バラの牛乳はとても飲みやすく買ったその日に1人で1リットルパックを1本空けてしまいました。(愛知県)

■ コーヒー牛乳が好きです。他のと違って、ちょっとお高いけど、牛乳の香りがするのが、とっても美味しいからやめられない。(岡山県)

■ 本日に美味しい牛乳で家族みんな大好きです!友達に勧めたら友達も大ファンになったようで、見つけて買ってほしいそうです。応援しています!(千葉県)

■ 娘が1歳になるので牛乳デビューします!白バラさんの牛乳でデビューを果たしたいと思います。(鳥取県)

■ 私も牛乳を飲みますが95歳になる母親は毎日瓶を1本飲んでいました。値上がりしたけど続けることにして長生きしてもらいます。(島根県)

■ 昔美方郡にいた頃に大変お世話になりました。こちらに来てあまり白バラさんを買ったことができなかったのですが、昨日久しぶりにヤマダスパーで買わせていただき、やっぱり美味しいと思いました。(兵庫県)

■ 「大山バターや牛乳を使用している」と書いてある商品はいっぱい手にとってしまいます。大山乳業農協さんの製品を使用するとなんでも美味しくなりますね!(鳥取県)



カウリーの エブリディ!

さく:福井チーフ え:堀江あかね

新しい元号



編集後記

牛乳の日に発売される絵本は、大人も子どもも牛や酪農について知ることが出来る素敵な絵本に仕上がっています。たくさんの方が酪農を知ることへのきっかけになる事を願います。

酪農だよりに関するご意見ご感想は下記のメールアドレスまで。

[\[email@dainyu.or.jp\]](mailto:email@dainyu.or.jp)
こちらのQRコードからもメールアドレスを取得できます▶



Dainyu 野球部 活動報告

4月7日(日)に倉吉市市営球場で、平成31年度開幕式と、高松宮杯第63回全日本軟式野球大会中部ブロック予選会が行われ、今年新たに2名の部員を迎えた大山乳業野球部は中部消防と対戦しました。

中部消防はこの大会で何度も優勝を飾る強いチームですが、蓋を開けると1点を争う好ゲームとなりました。

結果は2対0で負けてしまい新入部員に雄姿を見せられなかったのは残念ですが、相手チームより安打の数は上回り、次回に期待が持てる試合内容だったので、次の大会は良い結果を残したいと思います。

また、試合の前後には審判の方や対戦チームから「白バラ牛乳は美味しい」と評判でした。

善戦を重ね、野球部が活躍する事で、大山乳業農協の知名度を上げていきたいと思っています。

次回は5月26日に行われる、第52回中国五県軟式野球大会に出場します。酪農家の皆さん、職員・OBの方々、応援よろしくお願いします。



試合の様子



新入部員の藤井くん(左)と高見くん(右)

Dainyu-PICKUP!

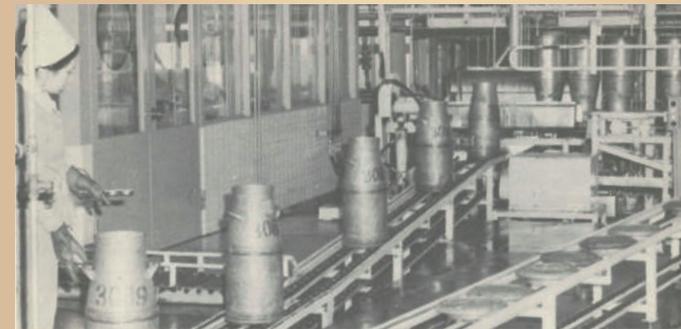
大山乳業農協が女性活躍推進企業に認定されました

大山乳業農協は、3月に鳥取県より「鳥取県男女共同参画推進企業」「輝く女性活躍パワーアップ企業」の2つに認定されました。

いずれも企業の女性活躍を推進する企業を認定するものです。

鳥取県からの認定を受け、今後も、男女ともに働きやすい職場環境

作りを積極的に進め、人材育成・環境整備をより一層充実させていきたいと思っています。



今回は、昭和47年5月16日発行の酪農だより第124号。昭和45年1月に完成した広さ220坪の受乳場で4名の女性職員が毎日約40トンの受乳をしていたことが紹介されています。

大山乳業「酪農だより」バックナンバーから当時の様子を覗いてみます

あの日・あの時